

大規模予算事業の政策立案・効果検証と EBPMの「型」ガイドブックについて

2025年10月 経済産業省

経産省におけるEBPM／政策評価の取組体系（概略）

- 省全体の政策評価を、7つの政策評価軸と12の政策テーマに基づき各局長名にて推進
- 政策評価法に基づく「政策評価基本計画」に基づき、毎年度事後評価を実施

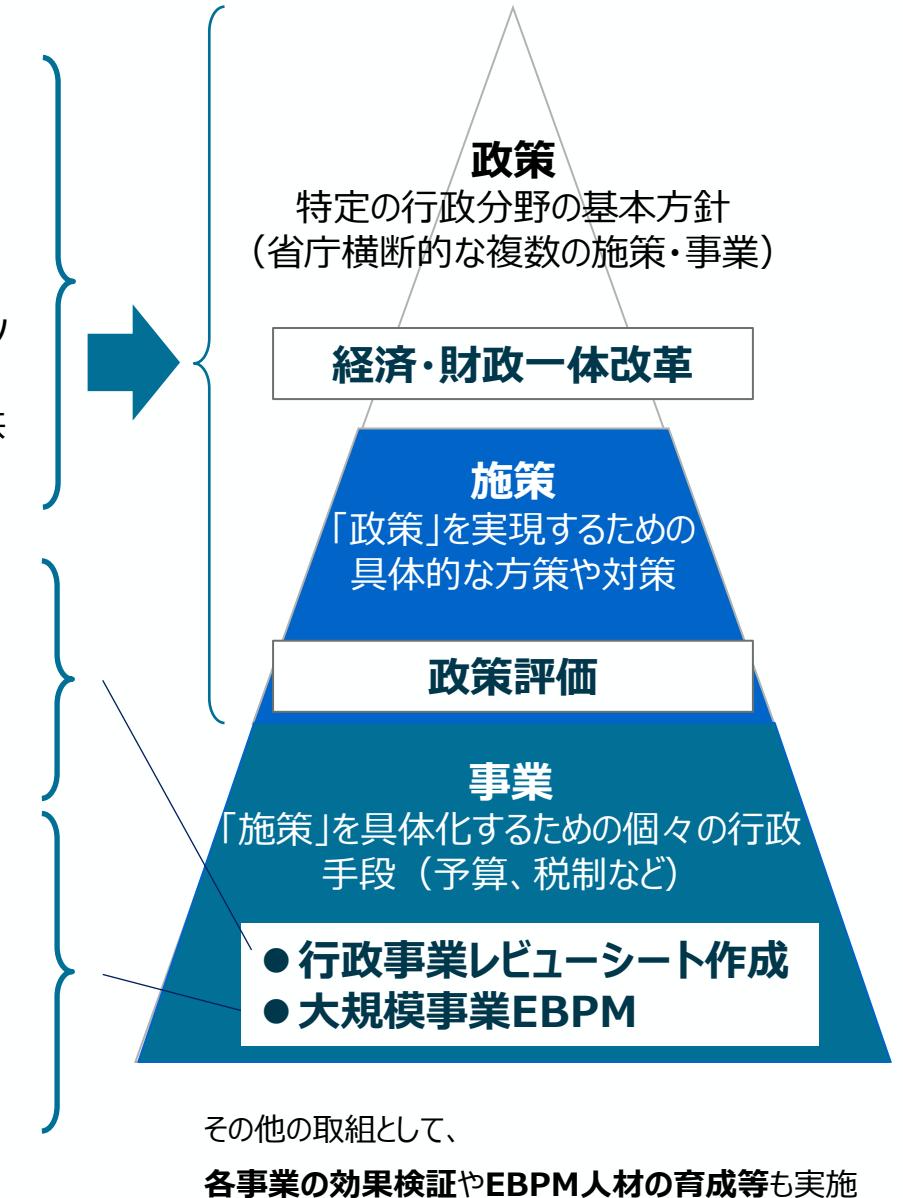
1. 経済構造改革の推進及び地域経済の発展 / 2. 対外経済関係の円滑な発展 / 3. イノベーション政策の推進並びに産業標準の整備及び普及 / 4. 情報処理の促進並びにサービス・製造産業の発展 / 5. 産業保安・安全の確保 / 6. 資源エネルギーの安定的かつ効率的な供給の確保並びに脱炭素成長型経済構造への円滑な移行の推進 / 7. 中小企業の発展

● 個別予算事業における行政事業レビューシートの作成（約500事業）

- レビューシートの品質向上に向けて、研修・人材育成、研究開発、設備投資、などの政策類型ごとの「成果指標設定ガイド」を作成⇒令和6年度当初予算より省内展開

● 産構審新機軸部会の議論（22年3月～）において、大規模予算事業について「事前の検証シナリオ」、「必要なデータ収集」に力点を置いたEBPMに取り組む旨を決定、実施中

- 「先端半導体基金」、「GI基金」を皮切りに実施中。RIETIの専門家によるレビューも実施。
- 大規模事業EBPMの「型」ガイドブックの作成⇒令和7年度より省内展開



大規模予算事業EBPMにおける経済産業省の取組み

- 経済産業省では、経済・社会に対して特に影響の大きい大規模予算事業において、効果検証の「深堀」を含むより発展的なEBPMの実践を推進している。

2021年

産業構造審議会 経済産業政策新機軸部会の立ち上げ

- 社会・経済課題の解決に向け政府が積極的に介入する「経済産業政策の新機軸」の検討を開始
- その中の検討課題として、「データに基づかない政策意思決定」から行政をアップデートさせることを位置づけ。

2022年

第5回新機軸部会において、EBPMについて議論

- 従来の取組に加え、大規模予算事業について効果検証の「深掘」を行うことを提案
- 具体的には、先端半導体基金、グリーンイノベーション（以下、GI）基金の効果検証シナリオを策定・公表を提案

RIETIに「EBPMセンター」設立

2023年

大規模予算事業の効果検証の開始

- 新機軸部会第2次中間整理において、2022年度補正事業のうち、新たにバイオものづくり革命推進事業を、大規模事予算業EBPMの対象事業とすることを決定

2024年

効果検証の対象となる大規模予算事業の追加選定

- 新機軸部会第3次中間整理等において、2023年度補正事業のうち、新たに宇宙戦略基金、グローバルサウス未来志向型共創等事業、中堅・中小企業の賃上げに向けた省力化等の大規模成長投資補助金、中小企業省力化投資補助事業を、大規模予算事業EBPMの対象事業とすることを決定

2025年

効果検証の対象となる大規模予算事業のさらなる拡大

- 新機軸部会第4次中間整理等において、2024年度補正事業のうち、新たに量子コンピュータの産業化に向けた開発の加速事業、中小企業成長加速化補助金、クリーンエネルギー自動車の普及促進に向けた充電・充てんインフラ事業、鉱物サプライチェーン多角化・安定化事業を、大規模予算事業EBPMの対象事業とすることを決定

省内向けガイドブックのとりまとめ（本書）

- 大規模事業におけるEBPMを重点的・効果的に実施するため、蓄積した知見・ノウハウ・検証手法等をガイドブックとしてとりまとめ

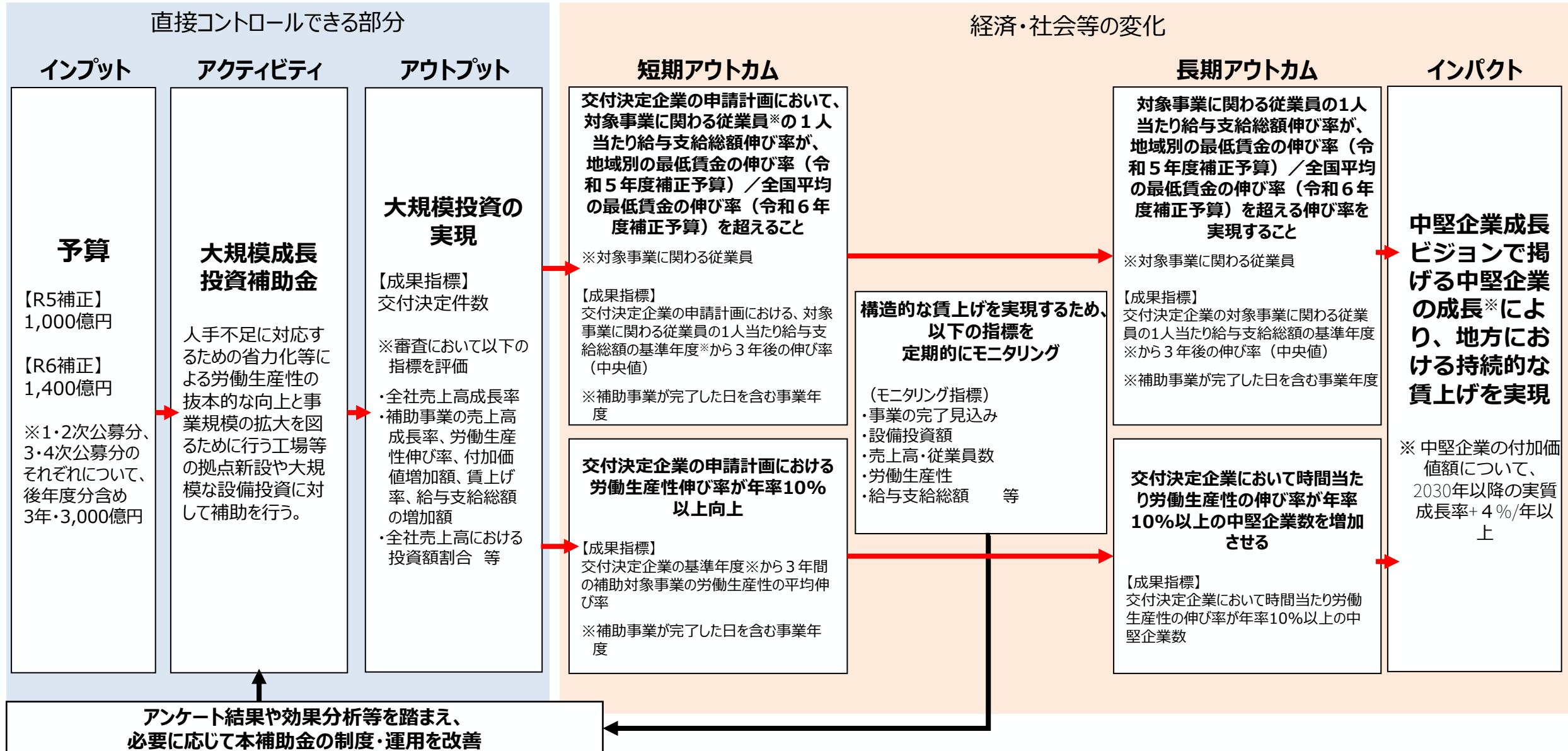
実施中の大規模予算事業

- 予算要求事業の中でも特に大規模な事業について「開始後の効果検証に特に重点を置いたEBPM」を実施し、当該事業に係る効果検証シナリオ（事業概要、ロジックモデル、分析モデル等）を順次公表。（公表後も必要に応じて適宜更新）
- こうした効果検証シナリオを踏まえつつ、事業を進める過程において、検討の前提となった事実や政策を巡る状況変化に応じてデータの検証等を行いながら、事業効果の向上を目指しているところ。



(例示) 中堅・中小企業の賃上げに向けた省力化等の大規模成長投資補助金における アウトカム目標とロジックモデル

※本ロジックモデルについては、今後も検討・見直し予定



EBPMを担う人材育成の取組

- 令和3年度以降、経産省内におけるEBPM/データ利活用を担う人材育成のため、「EBPM実践研修」を毎年開催。
- 過去4年間で延べ約300人が参加。
- EBPMに関する教材の作成・省内展開や、政策立案の実務に資する分析結果の蓄積、有識者とのコネクション形成等にも貢献。

EBPM実践に必要なスキルと令和7年度研修の関係

【データ利活用研修】 データ利活用リテラシーの底上げを図るため、各職員の資料作成実務に直結するような、データの読み方・見せ方・探し方や簡易な相関分析等の基礎的なスキルを習得。

【EBPM実践研修】 初学者もわかりやすいように導入的な講義の「理解する」、さらに過去の分析事例を基に手を動かす演習の「体験する」、さらには、「理解する」や「体験する」で紹介された手法等を使い、有識者の伴走支援を得ながら、業務でのアウトプットを意識した自走型の分析プロジェクトを「実践する」。

EBPM実践研修（体験する、実践する）

EBPMを実践する能力（エビデンスに基づく政策立案の一連のプロセスを回せる能力）

- ・政策の波及経路の設定スキル
- ・データ処理・加工・分析スキル
- ・分析結果の説明スキル 等

論理的思考力

データ利活用力

説得的な情報伝達力

専門スキル

EBPM実践研修（理解する）

EBPMに関する基礎的理解

- ・ EBPMの概念の理解
- ・ EBPMに利用する「ファクト分析※」の基礎知識 等

データ利活用研修

基礎的なデータ利活用スキル

- ・ Excelスキル（グラフ作成、関数等）
- ・ 統計データ利活用の基礎知識 等

EBPMに関する動画・資料

- ◆ EBPMに関するEラーニング
→EBPMの基礎知識習得
- ◆ リサーチデザインに関する講義動画
→ロジックモデルやリサーチデザインの作成方法習得
- ◆ EBPMのための分析手法講義動画
→R言語を用いた分析手法習得
- ◆ ファクト分析事例集
→政策立案に資するファクト分析の実施ポイントを体系化
- ◆ 統計データカタログ 等

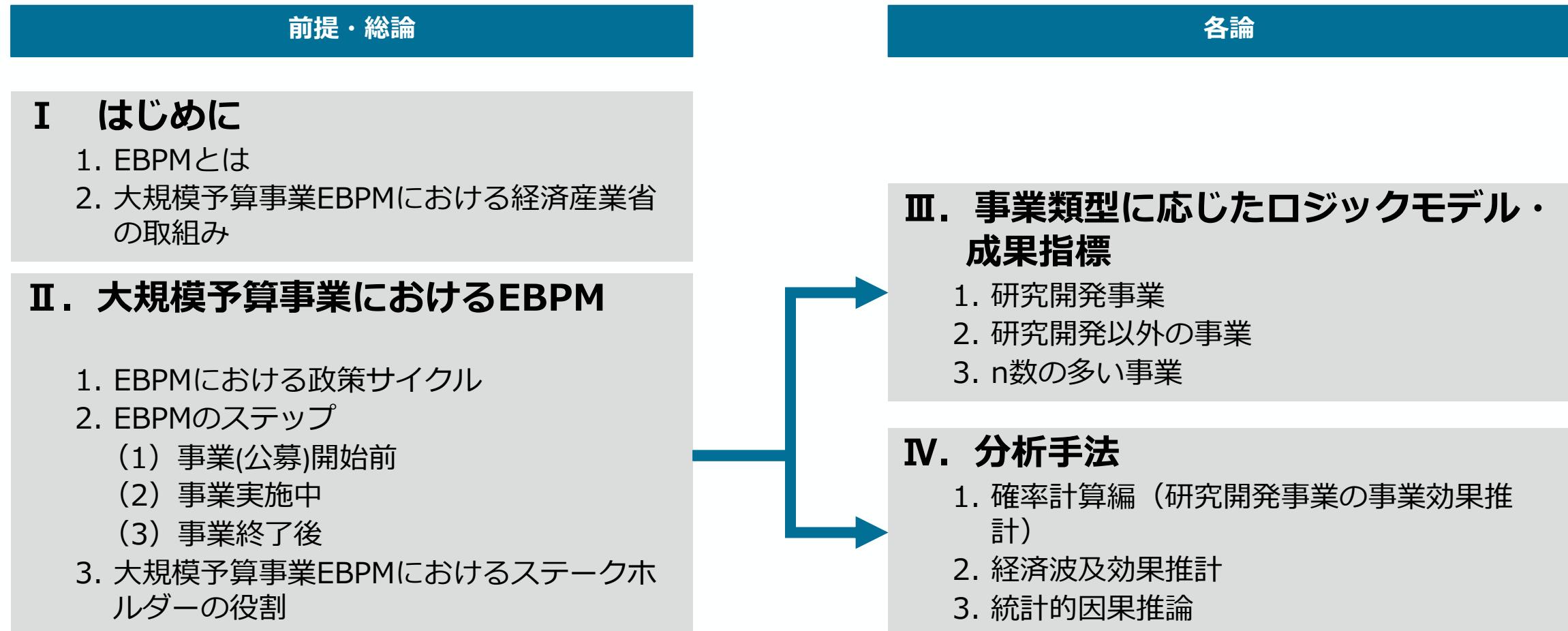
※統計などのデータによって現状把握、課題の発見をする作業のこと

大規模事業EBPM

「型」ガイドブックの概要

「型」ガイドブックの構成

- 大規模予算事業におけるEBPMを、政策担当課室（原課）とEBPM推進部局の双方が業務として効果的に実施しやすくするため、蓄積した知見・ノウハウ・検証手法等をガイドブックとしてとりまとめ。
- ガイドブックの構成および盛り込むべき内容について、共通的な項目を「総論」編、事業類型および分析手法ごとの解説を行った「各論」編として構成。

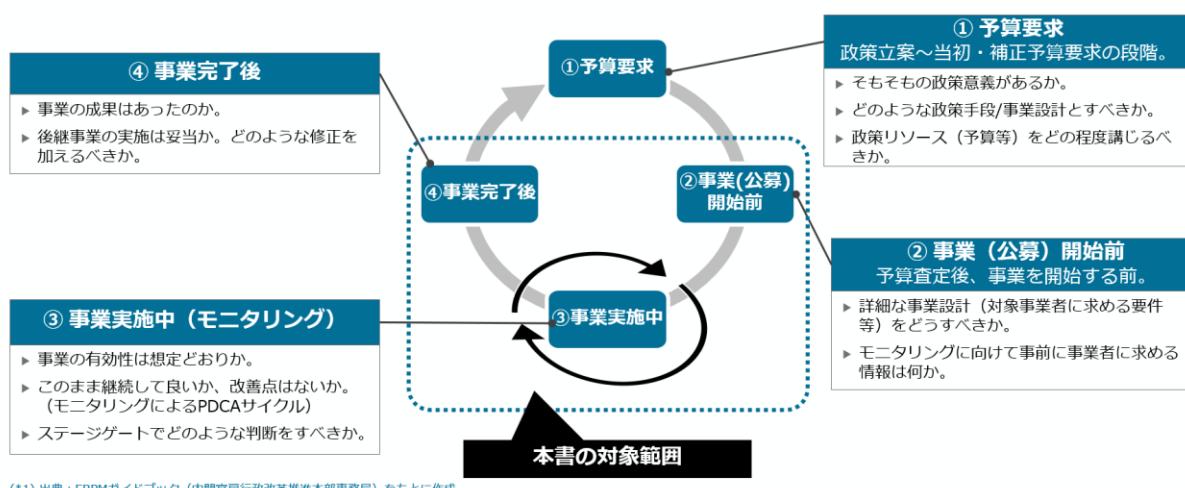


EBPMにおける政策サイクル / EBPMのステップ⁹

- 現在の「型」ガイドブックでは、政策サイクルにおける①予算要求後以降、②事業開始前～④事業完了後までのガイド。
- 原課（行政官）の業務として取組めるよう、重点箇所について「理論の解説」よりも「業務のステップ」に力点を置いて説明。

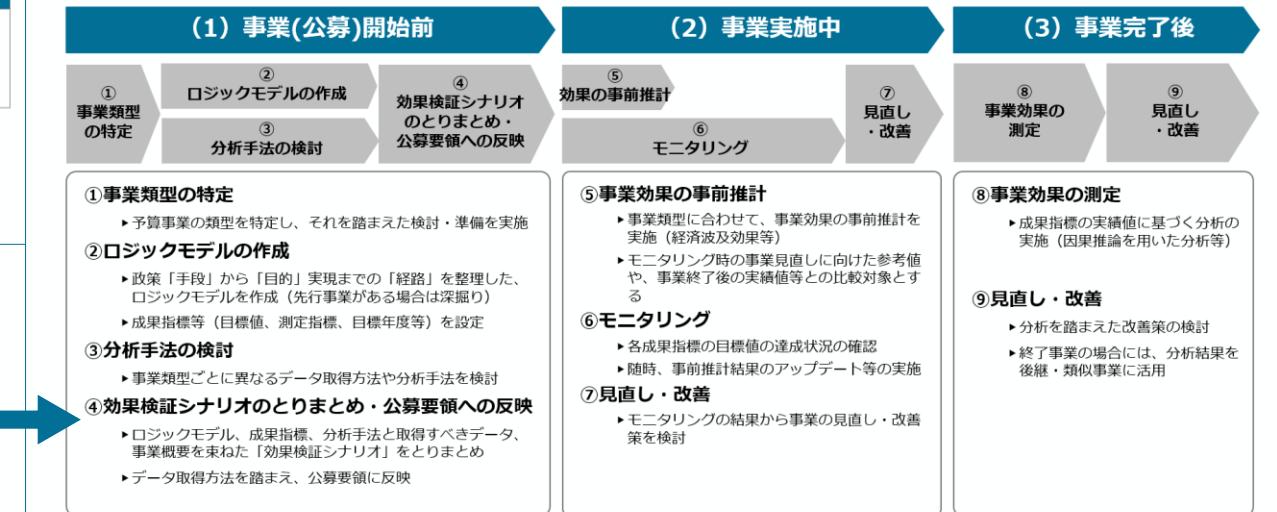
II-1. EBPMにおける政策サイクル

- 本書ではEBPMを、①予算要求、②事業（公募）開始前、③事業実施中、④事業完了後の4つのステップで整理する。政策サイクルを回しつつ、データ等のエビデンス（根拠）を調査・構築しながら、より効果的な政策手段に組み替え、最善の政策を選択していく取組が求められる。
- なお本書では、②事業（公募）開始前から④事業完了後までを扱う。（*1）



II-2. EBPMのステップ⁹

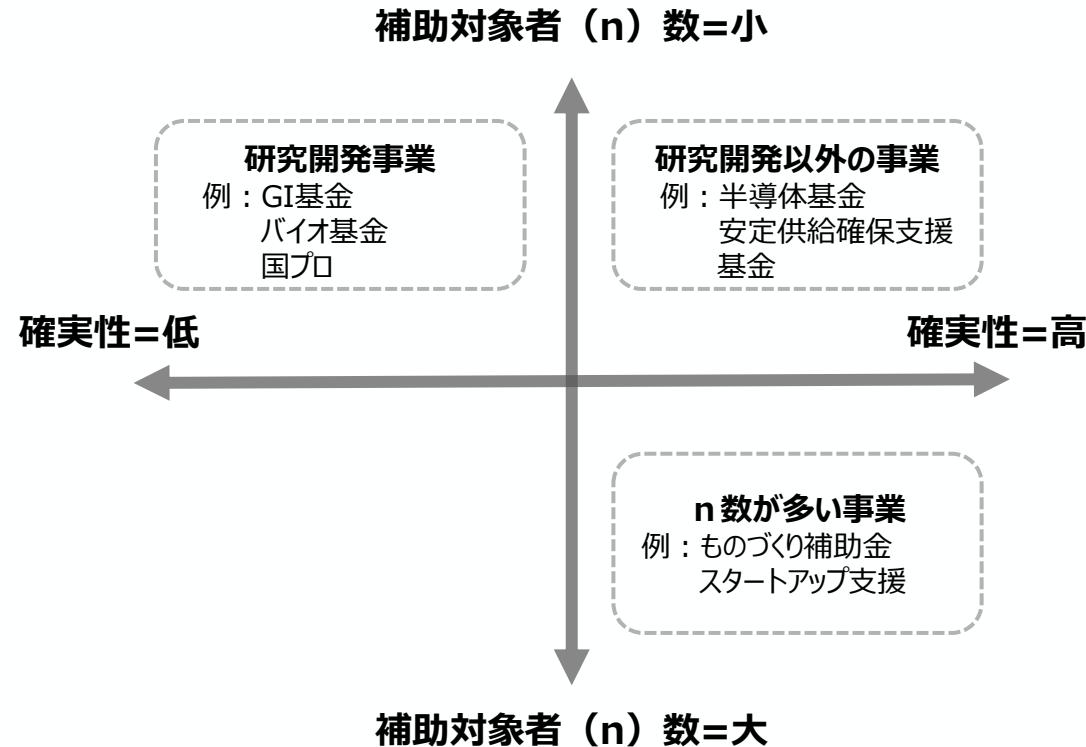
- (1) 事業（公募）開始前で効果検証シナリオの取りまとめと公募要領への反映までを行い、(2) 事業実施中以降、モニタリングや効果測定を行うが、各ステップで不断の（＝アジャイルな）事業見直し・改善を図ることが重要である。
- 効果検証シナリオや効果の事前推計、事後検証結果等については随時公表する。



事業類型の特定

- 本書では予算事業を、政策分野の特性から「研究開発型」、「研究開発以外の事業」、「n数が多い事業」の3つに「大括り」で分類。

政策分野の特性

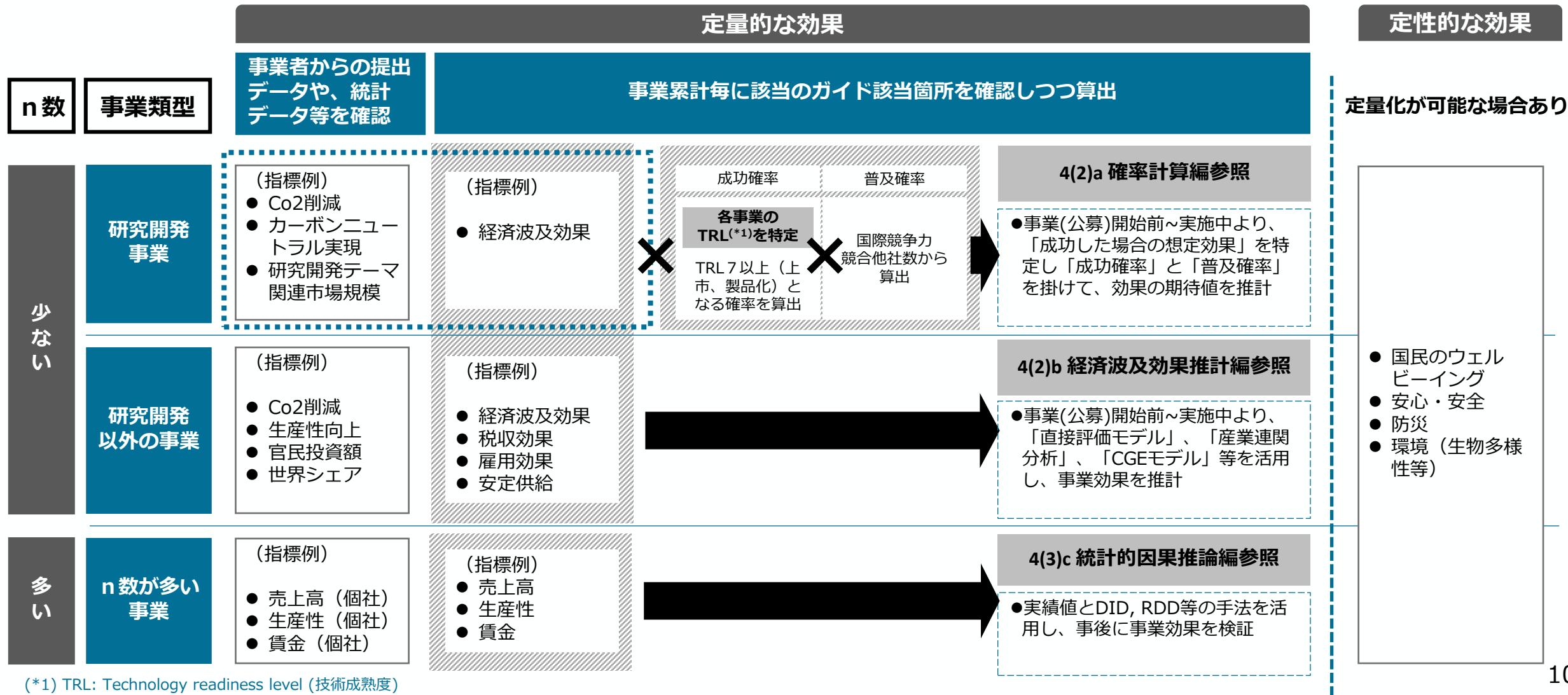


事業類型の説明

n数	事業類型	説明
少ない	研究開発事業	主として研究開発を実施する事業。 n数は少なく、各プロジェクトは、ステージゲート等によって評価・見直しをしながら進める。
多い	研究開発以外の事業	主として大型の設備投資や、部素材（原材料）の供給確保等を行う事業。 少数のプロジェクトや事業者に対し、大規模な投資を行うもの。
多い	n数が多い事業	数多くの企業に対し、補助金等を出すもの等。n数の大小が「研究開発以外の事業」との違いであり、事業の効果検証方法が異なる。

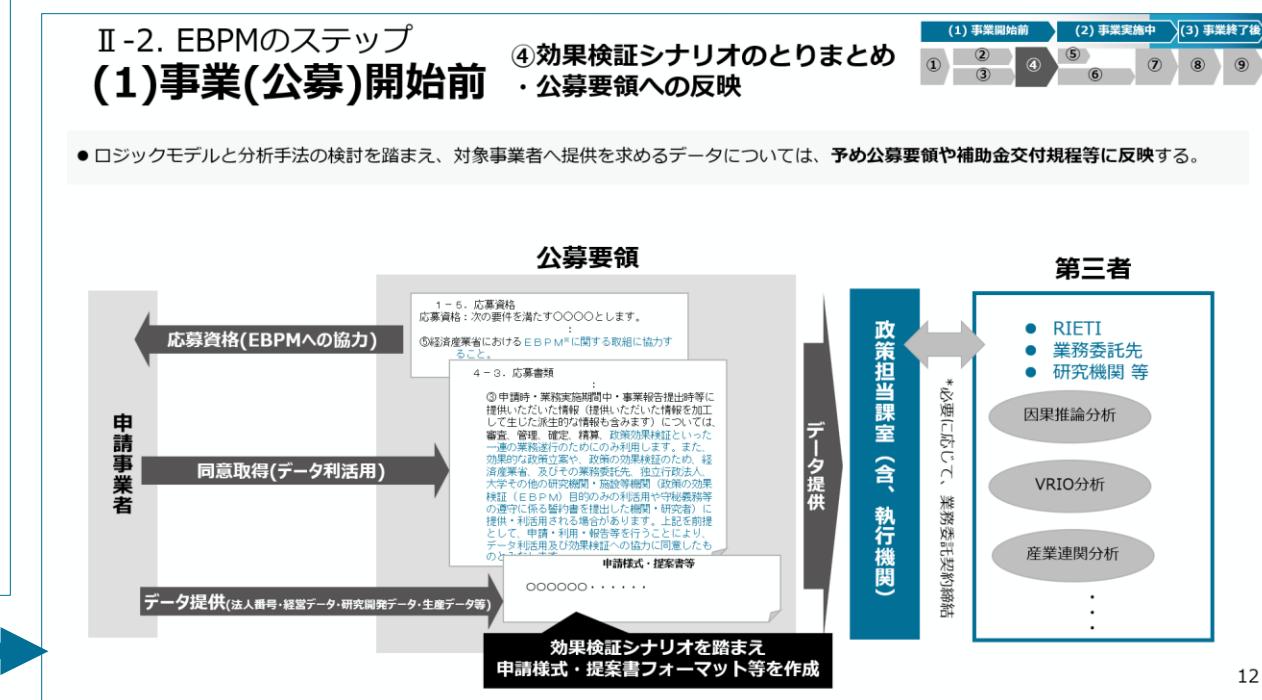
分析手法の検討

- 成果を定量的に測ることが困難なものについては、定性的な指標をおくことも可能であるが、**可能な限り定量化を実施**。
- 設定した成果指標（定量指標）から一部のものについては、**産業連関分析等の計算手法を活用して事業の期待効果を事前推計**。
- 研究開発事業についてはさらに、技術の**成功確率や普及確率等**、期待効果から「割り引かれる要素」を求め、確率計算を行い評価。



効果検証シナリオのとりまとめ / 公募要領への反映

- 事業概要、ロジックモデル、事業効果の推計または分析方法等についてパッケージ化し、「効果検証シナリオ」としてとりまとめ公表。併せて、RIETI EBPMセンター（アカデミアの有識者を含む）からのアドバイスをコメントペーパーとして公表。
 - 事業（公募等）開始に当たり、EBPMで必要となるデータの申請事業者からの提供を図るため、「効果検証シナリオ」を踏まえ公募要領にその旨を反映。



モニタリングについて

- 事業開始後のモニタリングでは、アウトプット、アウトカムの実績値（ファクト・データ）、ならびに設定されている目標値や事前推計を行っている場合の推計結果等との乖離の有無・程度を確認するが^{(*)1)(*)2)}、長期に亘る事業では別途モニタリング指標を設定し、より短いサイクルで実績を把握し、事業を見直し・改善。

モニタリングにおける主な視点

■事業の有効性は想定どおりか

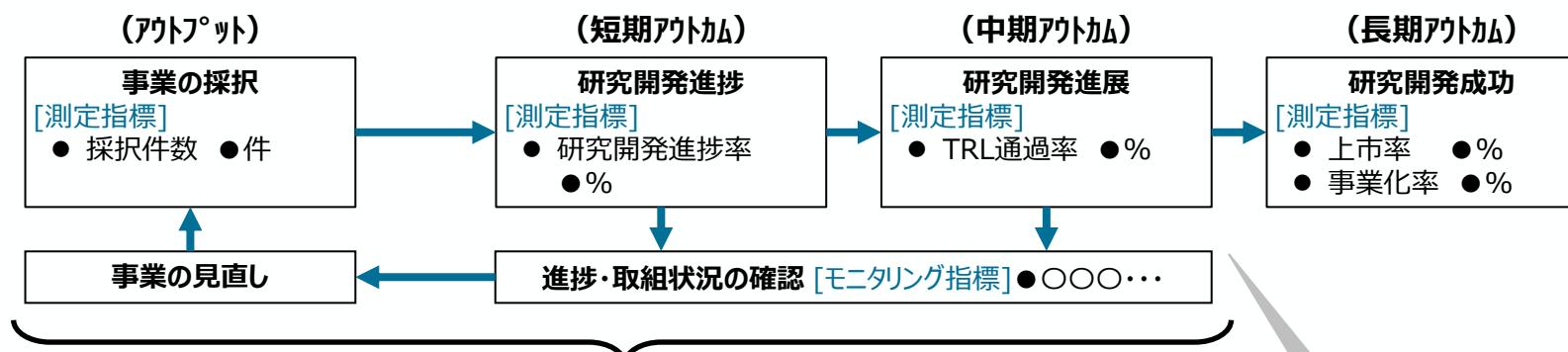
外部環境の変化を含め、事業の有効性が、事前に予測・推計した通りであるかを確認する。

■このまま継続して良いか、改善点はないか

実績（ファクト・データ）の確認や事前推計のアップデートを行い、計画当初との乖離が大きい場合には設定した長期アウトカム・インパクト指標達成のため、事業計画の見直しや他の政策手段（予算事業等）の必要性がないかを検討する。

■ステージゲート等でどのような判断をすべきか

研究開発型においては、ステージゲート審査等を行い^(*)3)、プロジェクトの予算配分・資源配分の見直しを実施する。



ロジックモデルで設定した成果指標について、定期的に把握することで、モニタリングを行う。（原則すべての指標について実施）
成果指標とは別にモニタリング指標を設定している場合は、併せて把握する。

測定した成果指標と成果目標にギャップがある場合には、前の構成要素（アウトカム、アウトプット）へ遡って、どこに問題があったのかを検討する。

(*)1) 出典：行政事業レビューシート作成ガイドブックをもとに作成。

(*)3) 必要に応じて、関連する部会等を開催。

(*)2) 予算執行中の事業については、行政事業レビューシートないしは基金シートの更新時にモニタリング結果を反映。

今後に向けて

- 業務の「型」や事業類型化（パターン化）に基づく大規模予算事業におけるEBPMの推進については、一定程度、初期の目的を達成しつつある状況。
- 政策担当課室・関係各所から提起されている指摘・要望等も踏まえつつ、引続き今後、改定等を検討予定。

今後の検討事項（例）

- 「予算」以外の政策ツールへの展開（政策ツール間比較を含む）
- 事業効果の「事前推計」のモデル・パターン
- 「モニタリング指標」設定についての考え方の深堀
- 貢上げ政策等の目下の「重点政策」に焦点を当てた効果算定方法の定式化
- 事後分析結果を、次の政策立案・政策形成のサイクルに活かす仕組み

．．．など

